

■インド：太陽光発電の建設、大手による寡占化進む

2016年9月9日付の報道によると、国内の太陽光発電の建設では、大手事業者による寡占化が進んでいる。政府は2022年までに再生可能エネルギー1.75億kW（うち太陽光1億kW）を導入する目標を掲げている。報道によると、これまで太陽光発電事業には500社以上が参入しており、上位20社で建設中プロジェクトの約80%を占めている。主な事業者には、新興財閥のアダニ（太陽光発電の設備容量シェア11%）、投資銀行ゴールドマンサックスの再エネ発電事業子会社ReNew Power（同10%）、米国のSunEdison（同8.5%）、ACME（同8%）、Azure Power（同5%）、大手財閥のタタ・パワー（同3.8%）、インド風力発電機メーカーのSuzlon（同3.7%）、中堅財閥Hero Future Energy（同3.7%）などがある。